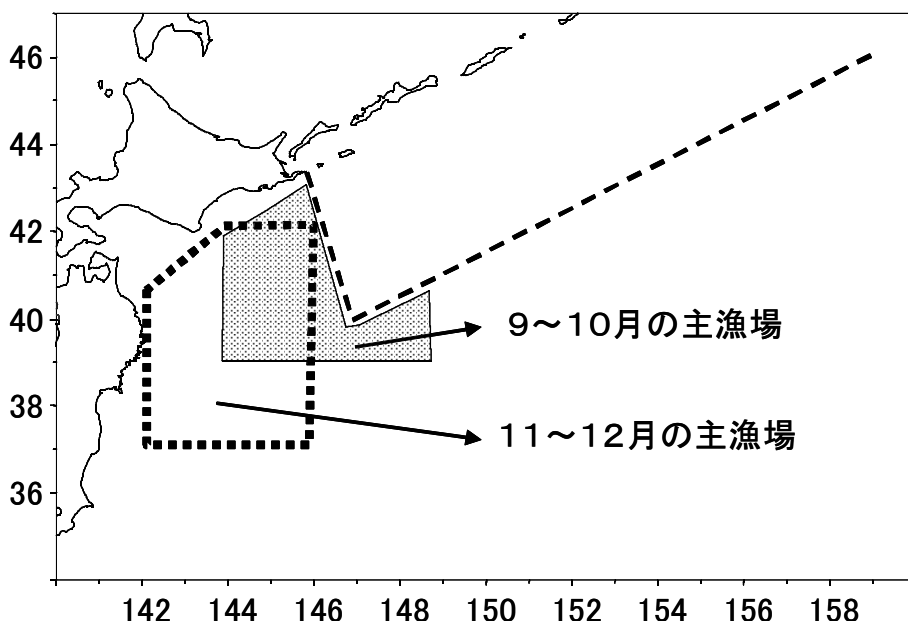


平成18年度北西太平洋アカイカ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
北海道区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2006年9月～12月)

155°E以西の北西太平洋におけるアカイカの来遊水準は2005年を下回り、サイズは大型



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当：青木、笠原、田中、佐藤

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

電話：03-3502-8111(内線7375、7376)、直通電話：03-3501-5098、ファックス：03-3592-0759

電子メール：yuusuke_sato@nm.maff.go.jp

独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所 業務推進部

〒085-0802 釧路市桂恋116番地

電話：0154-91-9136、ファックス：0154-91-9355、電子メール：www-hnf-info@ml.affrc.go.jp

なお、本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査推進委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)、及び北海道区水産研究所のホームページ(<http://www.hnf.affrc.go.jp/>)に掲載されます。

参 画 機 関

<p>北海道立釧路水産試験場 北海道立函館水産試験場</p> <p>青森県水産総合研究センター</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産研究開発センター</p> <p>福島県水産試験場</p> <p>茨城県水産試験場</p> <p>社団法人 漁業情報サービスセンター</p>	<p>水産庁 増殖推進部 漁場資源課</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所 遠洋水産研究所 北海道区水産研究所</p>
--	--

平成18年度北西太平洋アカイカ漁況予報

今後の見通し（2006年9月～12月）

対象魚種：アカイカ

対象海域：155°E以西の北西太平洋

対象漁業：いか釣り

対象魚群：冬春生まれ西部系群（2006年級群）

魚体の大きさは外套背長で表示

- (1) 来遊水準：2005年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：9～10月の主漁場は、39°～43°N、144°～149°Eに形成される。
11～12月の主漁場は、37°～42°N、142°～146°Eに形成される。
- (3) 魚体：2005年より大型。10月の魚体は25～36cmが主体。

漁況の経過（2006年4月～8月）および今後の見通しについての説明

(1) 資源動向

漁獲対象系群の資源水準を中型いか釣り船のCPUE（1船1操業当たり漁獲量：4月～翌年3月の集計）から推定すると、1970～1990年代初頭にかけて減少傾向で推移していたが、その後は増加に転じ、1993～1998年は高い水準を維持していた。しかし、1999年に再び減少し、2002年までは低い水準であった。そして、2003年に再び1998年以前の水準にまで回復するなど、資源変動は大きい。

(2) 2005年の漁況

2005年の中型いか釣り船CPUE（4月～翌年3月の集計）は前年をやや上回り、近10年では1998年、2003年に次ぐ高い水準であった。2005年の9～12月の漁獲量（製品重量）は773トンであり、2004年（360トン）の215%に増加したが、近5年平均では17%であった（表1）。2005年を含む近年の漁獲量減少は、資源水準低下が主因ではなく、アカイカを主対象とした漁業が9～12月に殆ど実施されなかった影響が大きいと考えられる。近年、アカイカ漁業の主力である中型いか釣り船は、日本海等でのスルメイカ漁業に重心を移しており、そのため、アカイカの漁獲量が資源水準とは関係なく大きく変動する結果となっている。

(3) 2006年の漁況経過（主に4月～8月末）

- ・北海道太平洋海域：道東近海では8月末までの漁獲はない（前年0）。道南では4月以降の水揚げ無し（前年0）。
- ・三陸海域：八戸港の7月末までの水揚げは1,769トンであり前年（1,302トン）を上回った。なお、7月までの漁獲主体は170°E以東の海域であり、本予報で予測する系群とは異なる群が漁獲の対象となっている。岩手県主要港での8月末までの漁獲はない（前年13.0トン）。宮城県主要港での8月末までの漁獲はなし（前年0.1トン）。
- ・常磐海域：福島県主要港での7月末までの漁獲はない（前年0）。茨城県での7月末までの漁獲は無し（前年0）。

（4）関連調査結果

予測対象海域へのアカイカの来遊量および分布状態等を把握するために、試験研究機関等の調査船によるいか釣り漁獲試験が、三陸～北海道の太平洋海域（155°E以西）において、2006年6月中旬～7月上旬（第1次漁場一斉調査：7隻）、8月下旬～9月上旬（第2次漁場一斉調査：6隻）に実施された（表2、図1）。

- ・第1次漁場一斉調査：6月中旬～7月上旬の調査によれば、アカイカは146°E以東の沖合域に広く分散して漁獲されており、沿岸域での漁獲は少なかった。調査での有漁調査点割合および平均CPUE〔各調査点CPUE（釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の平均〕は29.1%と0.2（尾/台/時）であり、2005年調査での43.8%と0.7（尾/台/時）に比較すると出現頻度、CPUEともに大きく減少した。
- ・第2次漁場一斉調査：8月下旬～9月上旬の調査によれば、アカイカは津軽海峡周辺～襟裳岬西部を除く三陸沿岸～道東沖合域で広く漁獲されていた。しかし、CPUEが10を越えた地点は1地点のみであり、平均して分布密度は低かった。2006年の有漁調査点割合および平均CPUEはそれぞれ50.0%と0.6（尾/台/時）であり、2005年〔56.9%、4.2（尾/台/時）〕に比べ有漁地点割合、CPUEともに低下していた。特にCPUEは前年比15%、近5年平均の12%に大きく低下していた。

（5）魚体の大きさ

2006年8月下旬～9月上旬に実施された第2次漁場一斉調査で、いか釣り機によって漁獲されたアカイカの外套背長組成は、21cm、24cmに峰を持つ双峰型であり、19～28cmの個体の比率が高くなっていた。一方、2005年同期の外套背長組成は20cmにモードを持つ単峰型であり、17～23cmの小型個体の比率が高くなっていた。比較すると2006年は25cm以上の大型個体の比率が高く、前年よりも大型個体の割合が高くなると考えられる。

アカイカの月間成長量は村田・早瀬(1994)によると、6～10月で2.7～4.0cmと推定されている。

(6) 東北海区海況予報

アカイカの分布・移動は黒潮系暖水、暖水塊並びに親潮の動向と密接に関連している。2006年7月の東北海域の海況は、親潮第1分枝が東北近海側を南下し、また津軽暖流の張り出しも前年より弱くなっていた。親潮第1分枝の東北沿岸側の南下は9月下旬までは継続すると予測され、近海側の漁場形成を阻害する要因になると考えられる。なお、9～11月の東北海区の海況は次のように予測されている(平成18年度北西太平洋サンマ長期漁況海況予報会議東北海区海況予報資料)。

- ・ 近海(146°E以西)の黒潮北限位置は、かなり南偏～やや南偏(35°20'～36°20'N)で推移する。
- ・ 黒潮系暖水(100m深10°C以上)の北限位置は、近海で平年並に推移する。
- ・ 色丹島南東沖合と常磐沖の暖水塊は北東に、三陸沖合の暖水塊は西に移動する。
- ・ 親潮第1分枝の張り出しは、やや南偏(39°N以北)で推移する。
- ・ 親潮第2分枝の張り出しは、平年並(39°N以北)で推移する。
- ・ 津軽暖流の下北半島東方への張り出しは、平年並(143°10'E付近まで)で推移する。

(7) 今後の見通しの説明

いか釣り漁獲試験結果から、北西太平洋に來遊するアカイカ冬春生まれ西部系群の資源水準は、近年では高水準であった2003～2005年を下回り、1999年並みの水準に減少したと推測される。また、第2次漁場一斉調査によると、アカイカは例年同様に沖合域に広く分布していたが、高密度で分布する海域は認められなかった。

近年、アカイカ漁業は中型いか釣り船の減少およびスルメイカ漁業との兼業等の影響を受け、以前とは操業形態が大きく異なっている。中型いか釣り船の漁獲成績報告書を解析した結果(篠原ら、未発表資料)、1999年以降、9～10月の主漁場は39°～43°N、142°～149°E、水温15～21°Cの海域に形成されていた。また、11～12月の主漁場は、37°～42°N、142°～146°E、水温7～17°Cの海域に形成されていた。

2006年9～11月の東北海区の海況は、親潮第1分枝がやや南偏、沖合の親潮第2分枝が平年並、黒潮系暖水が平年並みと予測されている。しかし、親潮第1分枝の東北沿岸域への南下が9月下旬までは継続されると予想されているため、9月までは東北近海での漁場形成はないと予測される。10月以降は、東北海域における各水塊の動向がほぼ平年並と予測されていることから、アカイカの漁場形成はほぼ平年並と考えられる。

月間成長量を考慮すると、10月の漁獲主体は25～36cmになると推定される。

表1. アカイカの経年（年度）および9～12月の漁獲量

年	4-3月 計 (t)	9-12月		
		生 鮮 (製品重量, t)	冷 凍 (製品重量, t)	計 (製品重量, t)
1993	15,279	99	7,135	7,234
1994	71,016	3,556	32,602	36,158
1995	60,370	6,002	19,109	25,111
1996	58,445	1,606	20,439	22,045
1997	64,712	1,610	26,349	27,959
1998	62,684	3,570	30,300	33,870
1999	25,763	130	8,753	8,883
2000	28,099	1,035	10,141	11,176
2001	21,295	111	4,240	4,351
2002	11,964	0	478	478
2003	28,189	522	5,733	6,255
2004	10,727	8	352	360
2005	20,179	718	55	773

表2. 6～9月の水試・水研調査船によるいか釣り調査漁獲結果（第1次、第2次漁場一斉調査）から算出したアカイカの有漁地点の割合及び平均CPUE¹⁾

年	地点数	6月中下旬 ²⁾		8月下旬～9月中旬 ³⁾		
		有漁地点 割合(%)	平均 CPUE	地点数	有漁地点 割合(%)	平均 CPUE
1998	22	31.8	0.4	53	72.9	7.3
1999	32	65.6	2.7	40	48.7	0.5
2000	33	39.4	0.5	40	87.2	11.6
2001	46	47.8	0.8	43	76.2	3.9
2002	44	47.7	0.3	55	51.9	1.4
2003	50	18.0	0.6	47	53.9	7.3
2004	54	37.0	4.7	45	53.3	9.4
2005	48	43.8	0.7	52	56.9	4.2
2006	55	29.1	0.2	53	50.0	0.6

1) 各地点での釣り機1台1時間当たりアカイカ漁獲尾数の相加平均

2) 37-00N～40-59N, 143-00E～154-59E 3) 39-00N～43-59N, 141-00E～150-00E

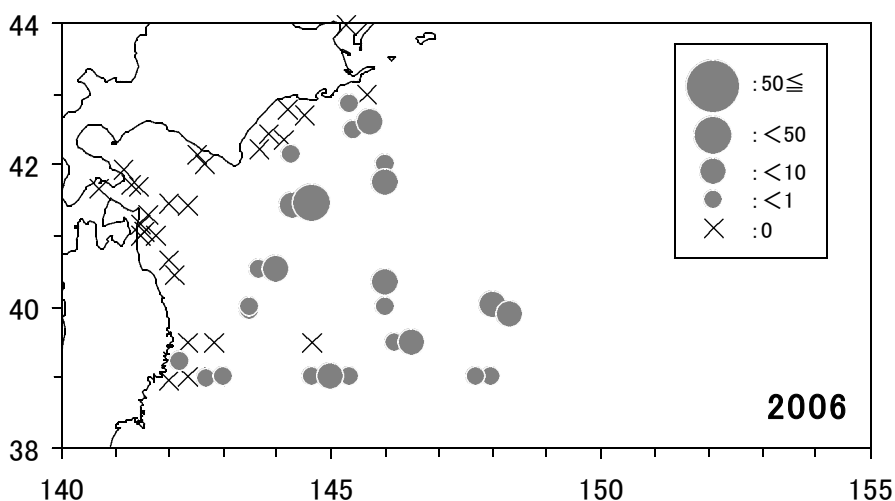


図1. 第2次漁場一斉調査で漁獲されたアカイカのCPUE分布.